

[成果情報名] 摘果ミカンを加工原料として採取するための防除体系

[要約] 摘果ミカンを加工原料として採取するための、銅水和剤（商品名：コサイド 3000）と炭酸カルシウム微粉末剤（商品名：ホワイトコート）の混用による黒点病防除を主体とした防除体系を実施した場合、生果用果実に対し、慣行防除と同等の防除効果を得られる。

[キーワード] 摘果ミカン、防除、銅水和剤、炭酸カルシウム微粉末剤

[担当] 長崎県農林技術開発センター・果樹・茶研究部門・カンキツ研究室

[連絡先]（代表）0957-55-8740

[区分] 果樹

[分類] 指導

[作成年度] 2016 年度

[背景・ねらい]

ヘスペリジン採取に使用する摘果ミカン採取後の残果は生果出荷用のミカンとして栽培した場合、摘果ミカン（未熟果）は着果から収穫までの期間が短い。農薬使用基準の収穫前日数の遵守など、より摘果ミカンの採取に即した薬剤を選定して防除を行いながら、生果ミカン（成熟果）として出荷できる外観を必要とする。そのため、摘果ミカンと生果ミカンに対応した新たな年間防除体系を構築する。

[成果の内容・特徴]

1. 摘果時期に近く収穫前日数の不足や残留のリスクが高まる5月下旬から摘果終了が見込まれる7月中旬までの防除薬剤に、収穫前日数が短い薬剤および、銅水和剤など収穫前日数の設定の無い薬剤を用いた防除を行う（表1）。
2. 摘果ミカン用防除体系における5月下旬～摘果終了までの主要な防除対象病害虫（黒点病、カイガラムシ類、チャノキアザミウマ、ミカンハダニ）の生果収穫時の果実に対する防除効果は、慣行防除体系と同等である（表2）。
3. 摘果ミカン用防除体系における生果ミカン収穫期の果実の汚れは、慣行防除体系と同程度である（表2）。

[成果の活用面・留意点]

1. この摘果ミカン用防除体系は、摘果ミカンおよび生果ミカンの両立を想定している。
2. 摘果ミカン専用園などの生果の収穫を想定しない場合には、それに合わせた防除体系の調整が必要である。
3. 5月下旬から摘果終了までを除く期間の防除は各産地の慣行の防除指導に従う。
4. ただし、摘果ミカンの終了後直ちに、ゴマダラカミキリ防除を行う。

[具体的データ]

表1 摘果ミカン用防除体系と慣行防除体系（一例）

月	半月	摘果ミカン用防除		慣行防除（参考：農林技術開発センター）		
		対象病虫害名	農薬名	対象病虫害名	農薬名	
5	6	カイガラムシ類	コルト顆粒水和剤（2000倍）	カイガラムシ類	アブロードエースフロアブル（1000倍）	
6	1	黒点病 チャノキイロアザミウマ	コサイド3000（2000倍） + ホワイトコート（50倍）	黒点病 チャノキイロアザミウマ	ジマンダイセン水和剤（600倍）	
	2	ミカンハダニ	マシン油乳剤（97%、200倍）	ミカンハダニ	マシン油乳剤（97%、200倍）	
	3					
	4	↑				
	5	摘果ミカン収穫※1	黒点病 チャノキイロアザミウマ	コサイド3000（2000倍） + ホワイトコート（50倍）	黒点病 チャノキイロアザミウマ	エムダイファー（600倍）
	6				カイガラムシ類、 ゴマダラカミキリ	スプラサイド乳剤40（1000倍）
7	1					
	2	黒点病 チャノキイロアザミウマ	コサイド3000（2000倍） + ホワイトコート（50倍）	黒点病 チャノキイロアザミウマ	ジマンダイセン水和剤（600倍）	
	3					

※1 色掛け部分は想定される摘果ミカンの収穫時期

注) 例示した期間を除く栽培期間の防除は慣行防除体系と同様に行う。

表2 防除効果および果実の汚れの比較

年度	設置場所	処理区	黒点病①※1		黒点病②		カイガラムシ類 被害果率 (%)	チャノキイロアザミウマ 果実部		ミカンハダニ 被害度	果実の 汚れ 汚れ度		
			発病果率 (%)	発病度	発病果率 (%)	発病度		被害果率 (%)	被害度 (%)				
2014	農技センター	摘果ミカン用防除	6.0	2.8	59.6	10.5	6.8	2.0	0.3	6.0	1.0	12.6	14.0
		慣行防除	8.0	3.9	50.4	9.9	0	7.2	1.3	14.8	3.3	7.3	13.3
2015	農技センター	摘果ミカン用防除	6.4	2.7	54.0	9.5	0	3.6	0.6	2.4	0.4	0	29.3
		慣行防除	0.8	0.3	50.8	7.8	0	5.2	0.9	4.4	0.7	0	20.2
2015	現地（東彼杵）	摘果ミカン用防除	2.0	0.9	68.0	10.3	0.2	2.0	0.3	0	0	0	19.7
		慣行防除	3.0	1.3	89.5	13.6	2	8.0	1.3	4.0	1.7	0.6	20.2
2016	現地（大村）	摘果ミカン用防除	2.7	1.1	54.0	8.5	0	3.3	0.6	1.0	0.2	0	27.8
		慣行防除	1.3	0.6	62.0	9.2	0	4.0	0.7	6.0	1.0	0	22.5

※1 黒点病①は実用上問題のある発病程度の果実（発病度3以上）のみで算出、②は全ての発病果実で算出※

注) 評価は収穫期の成熟果実を用いて行った。

[その他]

研究課題名：茶生葉との共溶解技術を利用した摘果ミカンからの高溶解フラボノイド含有食品等の開発

予算区分：国庫

研究期間：2014～2016年度

研究担当者：副島康義、山下次郎、田中加奈子、河原幹子、荒牧貞幸